

2023年シェアハウスに住む - 個を通してみる都市居住の可能性 -



現代のシェアハウスでは個室同士の関係性や共用部と外部との関係が希薄であり、個室と共用部の対比も明確になっている。現代のシェアハウスの個室のあり方は、都市や共用部に直接関わるが多いが、この修士設計では都市や共用部が個室と関わる時に選択できるグラデーション空間を通して関わる事が出来るシェアハウスを設計する。シェアハウスの個室に付随する個室+（プラス）を設けることにより、個室同士を緩衝したり、個室と都市を緩衝したりする。個室+（プラス）は個室同士の距離をつくり出すだけでなく、自分の個室にある内面を見せることを選択することができ、気配を伝えて集まって住む安心をつくり出す空間である。現代に生きる人々はこうした共用部や個室のあり方も融合するような複雑な社会で生きているのではないか。そのような複雑で多様な空間を共有するシェアハウスを提案する。

敷地は東京都世田谷区三軒茶屋。三軒茶屋は渋谷や新宿などの都市に入る大きな境界となる場所である。敷地周辺の12か所で建設が行われており、これから建設する集合住宅が9か所と多く見られた。人々が暮らす需要があり、暮らしの入れ替わりが行われている。

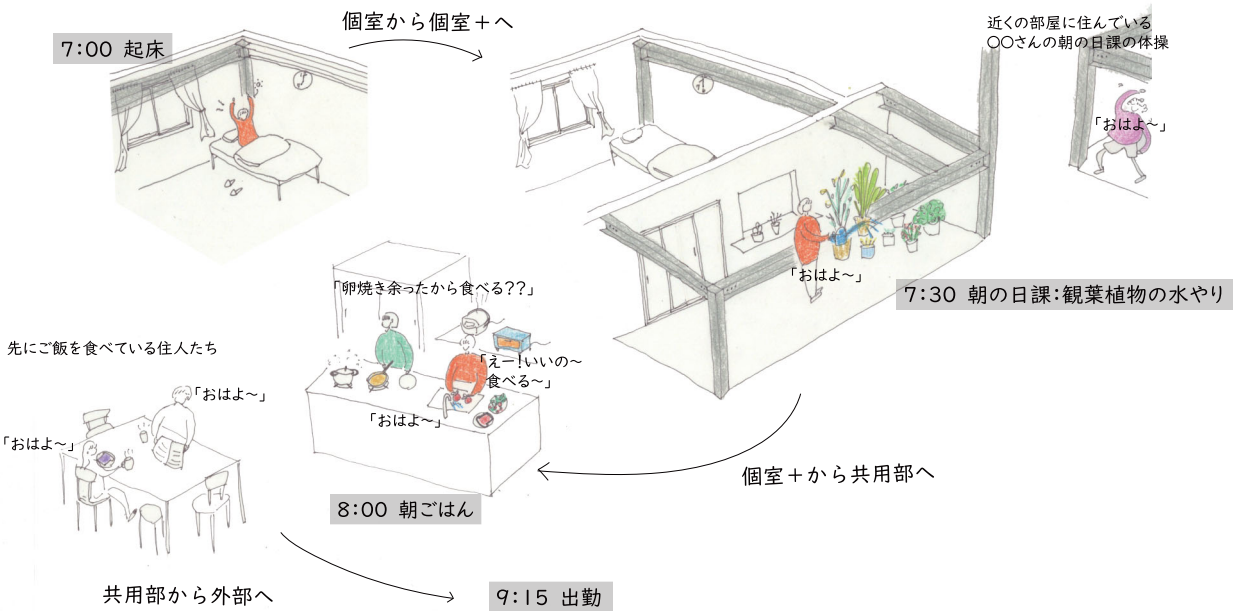


三軒茶屋には、古くから残る三角地帯、下北沢と繋がる茶沢通り、多くの商店街などがあり、住宅地の中には新しく建てる事が出来ない小さな土地に緑地が点在していることをリサーチする中で発見した。駅南側には、元日本軍の跡地である広大な土地には昭和女子大学をはじめとしたいくつものキャンパスがあり、戦後開発された団地は老朽化が進み新しい集合住宅へと移り変わっている最中であつた。街の特徴が点在している中で、敷地は大学、商店街、住宅の3つがちょうど交わる位置である。

敷地は、第1種中高層住居専用地域であり、敷地面積1500㎡、建築面積900㎡。周辺環境として、商店街がある西側には12m~15mの中高層ビルが立ち並ぶ。コインパーキングが住宅地の中に点在しており、人や車が行き来する。

敷地の最大の特徴は3辺が道路に面していることで、中と外で行われていることが伝わりやすい。

朝のシェアハウス：個室+（プラス）は自分の内側を少し見せる



これからの暮らし方として、現代の男女平等を求める社会の中で、人々の関係を男女の夫婦が子供を持つという家族のあり方だけではなく、子供を持たなかった人や持てなかった人が、片親と一緒に子育てをしていく家族のあり方や、パートナーがいなくなったリタイア世代同士がただ一緒に暮らすような家族のあり方、男女3人が家族になるような関係が生まれるのではないだろうか。つまり、家族のあり方は一対一（2人組）の関係だけで作られるのではなく、3人組、4人組のような家族のあり方が存在した時に、その暮らす環境にシェアハウスの暮らしが適しているのではないだろうか。

シェアハウスで生まれた新しい家族のあり方が、都市に開かれていき、やがて社会のあり方に近づいていくのではないだろうか

個室+（プラス）：個室に付随して上下階を共有する



「個室+」は、気配を映し出すため半透明な素材で出来ている



個室+（プラス）①

個室に部分的に付随する個室+（プラス）が個室同士の緩衝になることで個室を介しての関係が作れる。

個室+（プラス）②

共用部の機能（水回りなど）を個室と同等に扱うことで個室の際立ちを防ぐ。共用部の機能のまわりに小さな機能を明確に持たない共用を配置することで場面によりコモンやパブリックが変わる。

個室+（プラス）③

個室と共用部の配置によって作られた隙間が街の共用部となり、大きさが変わりながら入り込んでくる。入り込んできた街は、個室と直接繋がったり、個室+（プラス）を介して関わったりすることが出来る。同様に共用空間も同じことが出来る。

